

光栄の森

平成26年8月 毎月1日発行 第74号
発行者 光栄プロテック 湯峯

8月に向かって

代表取締役 三田雅憲

梅雨も明けていよいよ本格的な暑さを迎えております。飲みすぎに注意して睡眠を十分にとり夏バテせぬようにみんなで乗り切りましょう。また、今月から社報の内容を少し濃くしていきます。皆様もご期待ください。

7月に光栄プロテックの新たな一員としてS君が入社してくれました。現在はOJTの研修期間のため工場現場で共に汗を流してくれています。将来的には営業マンとして仕事を受注しながら工場のサポートも行えるよう日々努力をしてくれております。子は親を超えることはできません。親が伸びていかなければならないのです。どうぞ先輩社員も自身のうしろ姿をしっかりと見せられるよう努力願います。

今月は鍛山親方（元関脇寺尾）が日経新聞に寄稿された『こらえてこそ成長』からみんなと学びたいと思います。

東京・清澄にある部屋の稽古場に、好きな言葉を飾っている。

『苦しいこともあるだろう。いいたいこともあるだろう。不満なこともあるだろう。泣きたいこともあるだろう。これらをじっとこらえていくのが男の修行である。』

海軍大将 山本五十六の有名な言葉だ。部屋を興し昨年末にビルを建てた際、知人の書道の先生に書いてもらい、今は、稽古終わりに弟子に唱和させている。

時代を超えた普遍的な言葉と思う。相撲は男の世界だから原文のままにしたが、もし私が会社を興していたら『男』の部分『人』に置き換えていただろう。女性にも感銘してもらえと思う。苦しいときは、隣の芝生が青く見え、時には、人のせいにしたくもなる。怒られてその真意を理解するよりも、反論が先にでることもあるだろう。しかしそこをぐっとこらえてこそ成長し、見えてくるものがある。相撲は、礼に始まり礼に終わる。負けたら腹が立つときもあるけれど、見ている人は見ている。それが力士の評価につながることもある。

山本五十六は『実年者はいまどきの若者は、などという事を絶対に言うな』とも言っている。自分が若かったとき、皆同じことを言われたはず。それよりも、(若い者に)何ができるのかその可能性を発見してあげろという趣旨だ。(後省略)

社会に出て一つの組織や集団に属するためには、今までの自分の価値観、やり方や考え方を多少変更して合わせていかなければならない場面に往々にして出くわします。それがいやなら出ていかなければならないのですが、それらがピッタリ合う組織というのもそうあるわけではなく、上の言葉にもありましたが、苦しいこと、言いたいこと、不満、泣き言をこらえて前に進んでいくことが修行であり、苦労や人生を重ねた人の言葉が重くまた説得力があることはこのことからいえるでしょう。

S君はお父さんをとても尊敬しているとお聞きました。社会に出て厳しいことが続くと思いますが、きっと乗り越えていけることと思います。われわれもS君にうしろ姿をしっかりと見せられる大人となってこの8月を乗り越え、お盆休みには家族孝行ができるように頑張りましょう。

最後に、大変遅くなりましたが第2工場の休憩室の設置及び外部庇の設置工事が8月上旬から始まります。関係者には少し不便をおかけしますがよろしくお願ひします。